共立女子大学コレクション

「忠臣蔵」「千本桜」「菅原」の世界

平成27年12月12日（土）～平成28年1月13日（水）

9：30 ～ 17：30 入場無料

休館日：日曜日・祝日および、平成27年12月28日（月）～ 平成28年1月5日（火）

共立女子大学　神田一ツ橋キャンパス　本館1階展示室

東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線／
「神保町」駅下車A9出口から徒歩1分
東京メトロ東西線／「竹橋」駅下車1b出口から徒歩3分

東京都千代田区一ツ橋2-2-1　TEL 03-3237-2665

共立女子大学コレクション

「忠臣蔵」「千本桜」「菅原」の世界

文芸学部の劇芸術研究室には、故藤木宏幸先生以来、諸先生が収集なさったポスター・ちらしを始め、数多くの演劇資料が保存されている。上演当時の息吹を伝えて、大変興味深い資料といってよく、その中には、主催団体さえ失ってしまった貴重なものも多い。それを現在、文芸OGネットワークの方々が毎週集まって、整理・整頓し、いつでも使用できるように管理してくださっている。有難いことと感謝しているのだが、じつは、もう少々有効に使用できないかと常々考えている。ロビーでの展示は、その数少ない機会の一つだといってよい。

今回の展示は、歌舞伎や文楽で著名な三大傑作「仮名手本忠臣蔵」「義経千本桜」「菅原伝授手習鑑」に関係する資料を展示する。

「仮名手本忠臣蔵」は、元禄時代に起きた赤穂浪士の吉良邸討ち入り事件を劇化した作品で、近代になっても映画やテレビの題材になる、その原点である。

「義経千本桜」は、流浪する義経の前に、滅びた平家の武将がさまざまな姿で現れる長編。吉野の山を舞台に、狐が忠臣佐藤忠信になって姿を現す場面は、「宙乗り」の特殊演出で人気を博している。

「菅原伝授手習鑑」は、菅原道真の九州大宰府配流を背景に、三つ子の兄弟、梅王丸・松王丸・桜丸の悲劇を描き、中でも松王丸の悲劇を描く「寺子屋」の場は、歌舞伎や文楽の中で、もっとも上演頻度の高い人気場面である。

今回は、幕末から明治にかけての錦絵（役者絵）も展示し、昔の舞台を想像する手がかりとした。また国立劇場の複製した「立版古」は昔の子供のおもちゃで、歌舞伎が今よりずっと日常生活の中に入り込んでいたことがわかって楽しい。

この機会に、学生の方々にも歌舞伎や文楽に興味を持っていただけたら幸いである。